地域版地域ケア会議実施報告

令和5年度 世田谷 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催	10回
<p>■地域ケア連絡会(コア) 5回 ・参加者(所属):あんしんすこやかセンター</p> <p>■地域ケア連絡会 4回 ・参加者(所属):あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぽーと世田谷(地域障害者相談支援センター)、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所(地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課)</p> <p>■地域版地域ケア会議 1回 ・参加者(所属):あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぽーと世田谷(地域障害者相談支援センター)、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所(地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課)、各地区の四者(まちづくりセンター、地区社協、あんしんすこやかセンター、児童館)</p>	
抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)	
カテゴリー	テーマ
多問題	多問題事例における各関係機関との連携強化
内容	・ゴミ屋敷、近隣苦情、8050問題など事例が複雑化しており、未治療、引きこもり、支援拒否などが多岐にわたる場合が多い。このため支援機関ごとに役割やアプローチが異なるため、連携のタイミングを逸したり、情報共有がスムーズにいかず、連携が十分でない場合がある。
カテゴリー	テーマ
制度の狭間	各種支援サービスの対象、要件に該当しない人への支援
内容	・介護保険、生活保護、障害者自立支援法など各制度のサービス要件に該当しないが、明らかに支援が必要な人の対応に苦慮している。
カテゴリー	テーマ
居場所	障害の有無や世代にとらわれず、誰もが気軽に立ち寄れる居場所
内容	・認知症や障害の有無、世代に関係なく気軽に立ち寄り、人との交流を深めたり、既存のサービスに馴染めない人が、活躍できる居場所等の地域資源の開発が十分でない。
カテゴリー	テーマ
ネットワークづくり	子ども世代から高齢世代まで多世代が連携できるネットワークづくり
内容	・子ども、高齢者、障害者等各々ネットワークはあるが、地域全体で有機的なネットワークづくりが必要。特に子ども関係の人材や活動状況などの情報共有及び連携強化が必要。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>多問題事例における関係機関との連携強化 多問題事例は、各関係機関ごとに支援アプローチや役割が異なるため、連携のタイミングを逃したり、情報がタイムリーに共有できない場合がある。</p>	<p>地域ケア連絡会において、地域課題を共有し、「つながろう世田谷」をキャッチフレーズとして、ネットワーク強化を図った。 そして各関係機関での支援内容や役割、意見交換を行いながら情報共有の在り方、相互理解を深め、地域包括ケアシステムの推進に取り組んだ。</p>
<p>各種支援サービスの対象要件に該当しない人への支援 各種の支援サービスは有るが、対象要件に該当しない場合、中心となる支援機関や区の所管課が明確にされず、事例が重度化している場合がある。</p>	<p>地域ケア連絡会のコア会議において、区全体で検討されている新たな施策(金銭管理に関する支援サービス)について、区の所管課と地区での具体的な事例を交えて実効性のある支援サービスになるよう意見交換を行った。</p>
<p>地域全体で取組む地域づくり 介護保険法に基づく計画、地域保健医療福祉総合計画、地域行政推進計画における地域づくりを地域全体で有機的に推進していく必要がある。</p>	<p>地域版地域ケア会議において、地域振興課との合同企画で世田谷地域独自の「四者連携による地区アセスメント帳票」を作成し、四者での地区課題と解決策の検討強化を図った。そして、先行して取り組んでいるより良い活動を地域全体に波及できるよう、7地区の取組み状況を一覧表にし(見える化)、四者と関係機関等で情報共有及び意見交換を行い、地域全体の質の向上を図りながら地域包括ケアの推進に取り組んだ。</p>

今後の方向性・残された課題(全区レベルでの検討が望まれる課題等)

<今後の方向性>

- ・地域包括ケアシステムの推進にむけて、引き続き、あんしんすこやかセンターや関係部署、児童館を含めた四者との連携強化を図り、福祉保健領域及び区民生活領域の地域全体で有機的な地域づくりを推進していく。加えて、重層的支援体制整備事業(多機関協働事業)を通して複合的な問題に対して、包括的な支援体制を図り、支所のバックアップ体制の強化を図っていく。
- ・あんしんすこやかセンター・ぽーと(地域障害者相談支援センター)・リンク(世田谷引きこもり相談窓口)と連携し、効率的・効果的なサービス提供に努める。
- ・高齢者・障害者虐待の通報・相談に迅速に対応し、早期に介入支援を図るとともに、あんしんすこやかセンター・ぽーと(地域障害者相談支援センター)をはじめ関係機関と情報共有を行う。また職員のスキルアップを図り、虐待予防への対応力の向上に努める。

<残された課題>

- ・子ども、高齢、障害者等各々のネットワークをつなげ、人材活用を図る取組みを推進する。
- ・重層的支援体制整備事業(多機関協働事業)と連動した制度の狭間及び多問題事例への支援。

地域版地域ケア会議実施報告

令和5年度 北沢 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 7回	
参加者(所属): あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課	
地域合同包括ケア会議としての開催 3回	
参加者(所属): あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、相談支援事業所、保健福祉センター所長、地域振興課、まちづくりセンター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課、児童館	
テーマ: 「北沢地域版地域ケア会議報告書」の「地区・地域課題シート」の11項目から、「本人は身体・認知機能低下・精神症状等により生活を送ることが困難になる」を課題とし、「認知機能低下により、保清・金銭管理・安全管理に支障が生じた方への対応」をテーマに、関係機関の強みを活かした地域づくりについて取り組んだ。	
抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)	
令和2年度、北沢地域では、設定した12の地域課題が抽象的で具体的な取組みにつなげることが困難だったことから、過去に開催した地区版地域ケア会議を振り返り、地区の取組みにつなげることを意図して、より具体的なレベルで地区・地域課題を抽出した。 (北沢地域版地域ケア会議報告書(p.15～22参照))	
本人の課題	1. 本人が家族・地域から孤立している 2. 本人は身体・認知機能低下・精神症状等により生活を送ることが困難になる
家族の課題	3. 家族が拒否や思い込み、経済困窮等があるので、本人への適切な支援が入らない
家族・支援者の課題	4. 家族や支援者等は認知症や精神疾患等への理解不足がある 5. 家族や支援者は本人に必要な支援が入らないと負担が増す
支援者の課題	6. 支援者が複数いると支援者同士の連携が困難になる 7. 支援者は、介入困難な状況が長期化すると、対応に困り疲弊する 8. 支援者(専門職)が適切な情報収集・アセスメントができず、対応に困難を感じる
地域の課題	9. 地域はつながりのない本人の見守りが難しい 10. 地域には高齢者・障害・子ども等の複合的な支援が必要な世帯がある(例8050など) 11. 地域には柔軟なサービス提供の仕組みがない
これら11項目のもとに、より具体的に「主体」「原因」「結果」を明確に記述した小項目を設けている。また、新たな地域課題が抽出された場合、課題を追加し、「見える化」する。	

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>金銭管理</p> <p>金銭管理が困難になって生活に支障をきたす前段階で、本人や支援者が気軽に相談できるような地域のネットワークづくりが必要</p>	<p>6月の連絡会において、ケアマネジャーや相談支援事業所の相談支援専門員に参加をいただき、「あんしん事業」と「家計相談」の事業説明を行った。</p> <p>参加者からは、内容や手続きの流れについて具体的に順序立てた説明で分かりやすかった、本人の状況にあわせて周りの支援者がサービスや事業に繋がられるよう本人に寄り添い、信頼関係を築くことが大切だと思った等の感想が聞かれた。</p> <p>課題が複合化している中で、本人の意思決定支援の視点をもって、様々な関係機関と連携してネットワークづくりをすることの重要性を共有することができた。</p>
<p>安全管理</p> <p>認知機能が低下している方が、地域で安全・安心して暮らしていけるような、地域での見守り活動やネットワークづくりが必要</p>	<p>10月の連絡会において、ケアマネジャーや相談支援専門員に加え、町会・自治会、民生児童委員などの地域の方にも参加をいただき、前半は区の高齢者見守りの取組みについて説明し、後半は地域での見守り活動をテーマに、見守りによって適切な支援につながった事例や地域であったら良いと思う見守りについてグループごとに意見交換を行った。</p> <p>見守るだけではなく、何気ない声かけやポスト投函などのアクションが大切である、地域の方が参加したいと思えるような、四者連携事業や地域のイベントや行事、居場所などの社会資源を増やしたい等の意見が聞かれ、地域での顔の見える関係づくりの重要性を共有することができた。</p>
<p>複合的な課題を抱えた世帯への支援</p> <p>複雑化・複合化した課題や支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築について考えていくことが必要</p>	<p>1月の連絡会において、ケアマネジャーや相談支援専門員を対象に「複合的な課題を抱えた世帯への包括的支援・ネットワークづくり」をテーマに架空事例を用いたグループワークを行った。</p> <p>参加者からは、ケアマネジャーが問題を抱え込まずに済むように早めに相談・連携できることが重要であり、そのために風通しの良い関係を築いておくことを心掛けたいという意見も聞かれ、それぞれの関係機関の取組みや強みなどを知り、関係者間のさらなるネットワークづくりのきっかけの場とすることができた。</p>

今後の方向性・残された課題(全区レベルでの検討が望まれる課題等)

- ・令和6年度も引続き、「認知機能低下により、保清・金銭管理・安全管理に支障が生じた方への対応」をテーマに取り組む。特に、金銭管理は長年の課題であり、支援者としても大きな負荷となっている。
- ・重層的支援体制整備事業が開始される中で、現在は高齢者が中心の取組みになっているが、障害者、子ども、生活困窮者など、高齢者以外の分野を地域ケア連絡会でどのように取り上げるか、検討が必要である。

地域版地域ケア会議実施報告

令和5年度 玉川 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 8 回	
<p>参加者(所属): あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター(ぼーとたまがわ)社会福祉協議会、ぱらっとホーム世田谷、成年後見センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課 ※内容によって、保健医療福祉推進課が参加</p>	
地域合同包括ケア会議としての開催 2 回	
<p>参加者(所属): ①あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター(ぼーとたまがわ)、社会福祉協議会、ぱらっとホーム世田谷、成年後見センター、メルクマールせたがや、介護予防・地域支援課、生活福祉課、生活支援課、健康づくり課、子ども家庭支援課、保健福祉課②障害者施設、障害居宅介護、主任ケアマンジャー、訪問看護、あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター(ぼーとたまがわ)、社会福祉協議会、ぱらっとホーム世田谷、成年後見センター、メルクマールせたがや、民生委員、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、生活福祉課、生活支援課、健康づくり課、子ども家庭支援課、保健福祉課</p>	
<p>テーマ: ①「ひきこもり相談窓口<リンク>」との意見交換 「ひきこもり相談窓口<リンク>」が開設1年を経過し、この間の取組み状況と相談事例の共有を行い、意見交換を通じて連携強化を図った。 ②ワールドカフェでつながろう～地震(災害)に備えてそれぞれができること～ 玉川エリア自立支援協議会との共同開催。令和4年度より多摩川洪水浸水区域内に居住する避難行動要支援者に向けた個別避難計画の作成を進めており、令和5年度からは全区で震災時の個別避難計画の作成を開始した。災害に関する取組みが進む中で、いずれ起こるであろう地震への備えについて、分野を超えてアイデアを出し合い、各機関が顔の見える関係をつくり、連携を深める機会とした。</p>	
抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)	
カテゴリー	テーマ
孤立	独居の前期高齢者が地域と関わりがなく孤立している
内容	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を控える高齢者が多く、地域とのつながりがない特に70代独居の男性高齢者の孤立死事案が多発した。を逸したり、情報共有がスムーズにいかず、連携が十分でない場合がある。
カテゴリー	テーマ
認知症・見守り	独居の認知症高齢者の増加
内容	・認知症の方が地域に出かけるきっかけがなく孤立してしまう。地域とつながっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が見受けられる。ひとり歩きによる事故が発生した。
カテゴリー	テーマ
連携・制度の狭間	8050世帯に対して早くからのアウトリーチや課題整理の取組み
内容	・ひきこもり・精神疾患・身体障害・8050などの家族がいることによって起こる家族問題を抱える世帯が増加。問題も複雑化しており、表面化した際には対応が難しくなっている。
カテゴリー	テーマ
制度の狭間	親族に頼れず不安を抱える独居高齢者の増加
内容	・身寄りやキーパーソンになり得る親族がいない高齢者の支援が難しい。また、経済的に余裕がないが生活保護につながらない方の支援は制度でカバーできない部分が多い。
カテゴリー	テーマ
災害支援	避難行動要支援者への支援
内容	・多摩川洪水浸水想定区域における風水害及び震災(地震)時の避難行動要支援者に対する支援について、具体的な支援方法と介護保険事業者との役割分担の整理と検討が必要。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>前期高齢者の孤立</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を控える高齢者が多く、地域とのつながりがなく特に70代独居の男性高齢者の孤立死事案が多発した。また、実態把握訪問を実施する中で独居の未婚女性の孤立も明らかになった。</p>	<p><地区・地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に地域の共通課題として位置づけ取組みを開始した。 ・令和3年度より共通のチラシと質問票を使用し「高齢者の社会的孤立を予防する」ことを目的に、各あんしんすこやかセンター毎に訪問地区や対象者と人数の目標を設定し、令和5年度までの3年間「前期高齢者実態把握訪問」を実施した。 ・各地区で行う事業のテーマ設定の際に質問票の集計結果を参考に活用。また、ボランティア活動に興味のある方を活動につなげた。 ・独居女性を対象に「シニアシングル女性の防災サバイバル講座」を開催。「いざと言う時につなかりたい」という意見が多かった。 ・年度の後半より3年間の活動のまとめ作業をあんしんすこやかセンターとともにいった。(令和6年5月発行予定)。
<p>独居の認知症高齢者の増加</p> <p>認知症の方が地域に出かけるきっかけがなく孤立してしまう。地域とつながっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が見受けられる。ひとり歩きによる行方不明事案が発生した。</p>	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して」をテーマに『RUN伴プラス』を2地区で実施し事業所や地域の方との交流が図れた。 ・認知症当事者が地域に出るきっかけとして「本人ミーティング」を開催した。 ・認知症高齢者の行方不明事案について、関係者で振り返りの会議を開催し、ひとり歩きの理解深めるとともに危険を認識し、連携等の課題を確認した。 ・地区での認知症の理解を深めるため「認知症アクションチーム会議」や、一般・小中学校向けにアクション講座を開催した。
<p>親族に頼れず不安を抱える独居高齢者の増加</p> <p>身寄りやキーパーソンになり得る親族がいない高齢者の支援が難しい。また、経済的に余裕がないが生活保護につながらない方の支援は制度でカバーできない部分が多い。</p>	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内CMへアンケートを実施。キーパーソン不在・経済的困窮・金銭管理できない方への支援に苦慮していることが判明した。 ・「家族信託」「身元保障」等をテーマに比較的若い世代を対象に将来を考えるための講座を開催した。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度以降に取組む地域課題として整理。背景と原因を整理し、今後取組むための方向性を検討した。

今後の方向性・残された課題(全区レベルでの検討が望まれる課題等)

- ・3年間取組んだ「前期高齢者実態把握訪問」の活動のまとめから、新たな地域課題を把握し、地区・地域活動に活かしていく。
- ・新たな地域の3つの課題「経済的に余裕がなく生活保護等制度につながらない」「独居で身寄りなくキーパーソンになり得る親族が不在」「フレイル予防のための居場所づくり」に対する具体的な取組について検討を行う。
- ・独居の認知症高齢者が増え課題も様々である。特に身寄りのない高齢者の場合、成年後見の手続きに時間を要し、その間の支援が課題となる。病院の理解が得られず連携が取れない場合も少なくない。
- ・昨年度、玉川エリア自立支援協議会と協働し災害をテーマに地域版地域ケア会議(拡大)を開催した。震災の個別避難計画の取組みも開始され、障害高齢の支援者で連携し具体的な取組みを検討していく。

地域版地域ケア会議実施報告

令和5年度 砧 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 10 回	
<p>参加者(所属): あんしんすこやかセンター、地域障害者相談支援センター、砧地域社会福祉協議会、成年後見センター、ボランティアビューロー準備室、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課。 ※テーマにより、上記に加え、成城警察署、成城消防署、区民後見人砧地域会が参加。</p>	
地域合同包括ケア会議としての開催 2 回	
<p>参加者(所属): 1回目: 各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、MSW(医療ソーシャルワーカー)、サービス提供責任者、福祉用具事業者、保健福祉課 2回目: 各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、建築安全課空き家老朽建築物対策担当、砧総合支所地域振興課計画・相談、砧まちづくりセンター、NPO法人都民シルバースポーツセンター、保健福祉課</p>	
<p>1回目テーマ: ものを溜めてしまう方への支援を考える 講義「ゴミ屋敷になる精神状態と心理」 グループワーク「本人の思いに立った支援を行うには」 2回目テーマ: おひとりさまのおいじたく～〇〇は突然やってくる～ (防災、空き家問題等について)</p>	
抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)	
カテゴリー	テーマ
理解、制度	金銭管理に問題が生じている高齢者への支援
内容	・収支が合わないなど金銭管理に問題が生じていても、生活スタイルを変えることが難しい方への適切な支援が課題となっている。特に、問題解決の必要性を感じていない高齢者へのアプローチが難しい。また、現存する制度の枠組みでは対応しきれないケースもあり、支援が困難となっている。
カテゴリー	テーマ
連携、制度	8050世帯を支援する関係機関の連携のあり方
内容	・親(80世代)と子(50世代)のそれぞれの支援者同士の連携のあり方について、支援者間で考え方の相違があるため、世帯としての支援体制を構築することが難しい。連携の際の個人情報の取扱いを相互に確認する。
カテゴリー	テーマ
制度、地域活動	65歳未満の介護保険2号被保険者等を地域で支える仕組みづくり
内容	・65歳未満の介護保険2号被保険者や中途障害の方々々が介護保険等のサービスを希望しても、サービス提供内容が本人のニーズに合致せず、利用できない状況にあることが分かった。本人に寄り添える公的サービスや地域資源が不足している。
カテゴリー	テーマ
理解、質の向上	医療ニーズの高い高齢者の多摩川風水害時の避難について
内容	・避難行動要支援者に位置づけられない高齢者で医療ニーズの高い方について、当事者および支援者に避難の備えができていない。(事前避難の必要性や、避難所での対応に限界があることなどの理解や普及啓発が必要。)

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>権利擁護、普及啓発 高齢者が成年後見制度利用にスムーズに繋がらないことが課題となっている。金銭管理や契約行為が困難になったときに、それらを第三者に任せても安心だと思っただけのよう、まずは、高齢者の身近な支援者であるケアマネ等に対して、成年後見制度やその活用について正しい知識と理解を深めてもらう機会を作る。</p>	<p>令和5年12月「成年後見制度についての勉強会」をケアマネジャーおよびヘルパー事業所管理者向けに開催。区民後見人自主グループ(砧地域会)の有志の皆様にもご参加いただきグループワーク形式にて行った。成年後見制度活用による成功事例を共有し、金銭管理に関する支援課題を話し合う中で、成年後見制度への理解を深めることができた。なお、世田谷区社会福祉業議会成年後見センターより事例提供および質疑応答へ参加協力をいただいた。次年度以降も継続予定。(地域の取組み)</p>
<p>地域活動、理解 高齢者の自動車安全運転や事故防止等の取組みが課題となっている。</p>	<p>交通安全週間に、ケアマネジャー等地域の関係者や関係機関に協力をいただき、警視庁ホームページに記載の資料や運転免許返納啓発リーフレットを活用して普及啓発活動を行った。次年度も継続予定。(地区の取組み)</p>
<p>見守り、地域活動、普及啓発 高齢者等の異変に早く気づくための地域の見守りネットワーク構築が課題となっている。</p>	<p>商店街と共に見守り活動を推進し、あんしんすこやかセンターが継続して商店街の見守りを考える連絡会を開催し、見守りチラシを配布した。(地区の取組み)</p>

今後の方向性・残された課題(全区レベルでの検討が望まれる課題等)

- ・セキュリティの高いオートロックマンション等については、地域との関りが希薄な居住者が多い。居住者に対して見守りや安否確認への理解を深める取組みが望まれる。
- ・住み替えの必要が生じた高齢者に対して、引越しの際に発生する様々な手続きを個別具体的に支援する担当者が配置されている相談窓口等の設置が望まれる。
- ・本人の背景(疾患・障害・経済面等)を把握したうえで、生活支援の一環としての金銭管理をきめ細かく行える支援体制の創出が望まれる。
- ・判断能力のある高齢者が契約する民間保証会社に対する基準やルールづくりが望まれる。
- ・若年性認知症当事者および家族向けに、介護・障害サービスおよび経済面での制度等が網羅されている情報提供資料の作成が望まれる。若年性認知症の方の家族会を全区単位で開催し、医師や法律家等各方面の専門家にも参加いただく学習会等も行えるとよい。また、若年性認知症についてYouTube等で学べる仕組みづくりやオンラインカフェを実施するなど、忙しい家族でも情報を得たり支援者やほかの家族に繋がれたりするような取組みが望まれる。
- ・大規模店舗等に対して見守り協定締結が、店舗側のアピールになるような取組み、例えば感謝状の贈呈等が実施できるとよい。また、大規模店舗等にもあんしんすこやかセンターのチラシ等を置いていただけるよう協力依頼の手法の構築が望まれる。
- ・精神疾患に関するサポーター養成講座を立ち上げ、精神疾患のある方への偏見を取り除き理解を深めるための取組みが望まれる。一般区民や教育機関に向けて、適切な規模で必要に応じて実施し、講師に精神科医や看護師を依頼する等も実施できるとよい。

地域版地域ケア会議実施報告

令和5年度 烏山 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 8 回	
<p>参加者(所属):上北沢・上祖師谷・烏山あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、烏山地域障害者相談支援センターぽーとからすやま、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぷらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、タンドル南烏山、久我山病院ケアオフィス、子育て支援コーディネーターがりっじ、上北沢・上祖師谷・烏山まちづくりセンター、保健福祉センター長、健康づくり課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課 計画・相談、保健福祉課長、保健福祉課(地域支援、障害支援)、日本大学文理学部社会福祉学科教授、烏山ボランティアビューロー</p>	
地域合同包括ケア会議としての開催 1 回	
<p>参加者(所属):上北沢・上祖師谷・烏山あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、烏山地域障害者相談支援センターぽーとからすやま、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぷらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、タンドル南烏山、烏山病院、烏山ボランティアビューロー、さくらハウス、さわやか介護センター、子育て支援コーディネーターがりっじ、烏山総合支所長、保健福祉センター長、健康づくり課、生活支援課、地域振興課 計画・相談、街づくり課、駅周辺整備担当課、高齢福祉課計画担当、保健福祉課長、保健福祉課(地域支援、障害支援)、日本大学文理学部社会福祉学科教授、上祖師谷地区町会自治会連合会、烏山福祉作業所、権利擁護支援センターがしゅけⅡ、民生委員・児童委員、特別養護老人ホームフォーライフ桃郷、烏山ネット・わあーく・シヨップ</p>	
<p>テーマ:「いろんなもしもに備える支援を考えよう！」</p>	
<p>①令和4年度までに取り組んだ成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「制度の移行」「8050問題」「身元保証」「残されるペットや植物」等について ・「介護を必要とする人が活躍する場づくり(積極的見守り)」について ・「妄想についての理解」「ひとり暮らしの認知症の方への支援」について 	
<p>②講演「いろんな“もしも”を支えるために できるコト できないコト」</p>	
<p>③グループワーク「身元保証とペット問題についてできるコトを考えよう」</p>	
抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)	
カテゴリー	テーマ
見守り・地域活動	介護を必要とする人が活躍する場づくり(積極的見守りづくり)
内容	・特技、趣味、好きなことをして、自分らしい生活をどう継続して行くか、今までのつながりをどう維持し、新しいつながりをどう作っていくか。介護を必要とする高齢者や認知症への理解、どのような場が介護を必要とする人が活躍する場(=積極的見守りの場)になるのか、どのような人が支える人になるのかを考える必要がある。
カテゴリー	テーマ
制度	「8050問題」(制度の狭間)
内容	・心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある65歳未満の子の支援を行う機会が明確でない等、継続した支援を行うことが難しい。
カテゴリー	テーマ
制度	制度の移行
内容	・65歳になり障害福祉の制度から介護保険制度へ移行する際に、円滑なサービスの移行が難しい。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	身元保証
内容	・今は元気でひとり暮らしに困らない方でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面がある。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	残されるペットや植物
内容	・ペットの世話が心配で必要な入院・入所が出来ない方や飼い主の急な入院・入所で自宅に残されてしまうペットがいる。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	妄想についての理解
内容	・妄想による行動がある方について、地域住民の妄想への理解を深めることが難しい。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>積極的見守りづくり 介護を必要とする人が活躍する場づくり(=積極的見守りづくり)の必要性やそれを支える人が必要であること、また、介護が必要になる前に若い頃から自分らしく生きるための準備として、地域とつながることが重要であることについて理解してもらうための普及啓発が必要</p>	<p>・啓発に活用するツールとして、チラシ「～あなたの力が大切です～介護が必要になってもいきいき自分らしく過ごすために」を作成し、それぞれの関係者が活動している場所で普及啓発を行う。 ・並行して日頃の活動の中で、場に関することや積極的見守りの場につながった事例等について情報や体験を蓄積していく。</p>
<p>「8050問題」(制度の狭間) 心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある65歳未満の子の支援が必要。</p>	<p>・令和元年度より「ぽーとからすやま(地域障害者相談支援センター)」が事務局の「ぽーと会議」を実施している。「ぽーと会議」では、多職種の支援関係者が8050世帯の見立て(主に50の子について)を行い、家族としての支援の方向性を確認し、役割分担の確認を行っている。(計2回)</p>
<p>制度の移行 65歳になり障害者総合支援法から介護保険法へサービスが移行する際に、円滑なサービスの移行が必要。</p>	<p>・平成30年度より保健福祉課が事務局の「移行会議」を実施している。「移行会議」では、65歳になる6ヶ月前までに高齢・障害の担当者が移行までのスケジュールや役割分担の確認を行っている。</p>
<p>身元保証 今は元気で一人でも困らない人でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面があり、検討が必要。</p>	<p>・令和元年度に烏山地域における試行として、緊急搬送時の円滑な対応および自助の機運醸成を図ることを目的に、「熱中症予防シート」に、緊急連絡先等の記入欄を追加したものを配布し、令和2年度より世田谷区内全地域での配布に拡大された。 ・令和2年度より烏山地域社会福祉協議会が、烏山地域内の3地区で配布している「緊急時安心ツール」について、様式統一化した。</p>
<p>残されるペットや植物 急な入院・入所等によって残されてしまうペット達について、検討が必要。</p>	<p>・令和2年度より烏山地域社会福祉協議会が、「緊急時安心ツール」の様式統一化と合わせて「ペット用のちのボタン(緊急時安心ツールのオプション)」の配布を開始した。</p>

今後の方向性・残された課題(全区レベルでの検討が望まれる課題等)

<今後の方向性>
 ・地域版地域ケア会議全体会は、今年度は新たな地域課題には取り組まず、振り返りを行った。今までに取り組んだ地域課題の中で「8050問題」「身元保証」「残されるペットや植物」の3つの課題に焦点を当てて振り返った。
 ・拡大版地域ケア会議では身元保証や残されるペットや植物についてNPO法人の話を聞き、グループワークを行った。
 ・令和6年度は「災害への備えに対する準備不足」という地域課題について取り組む予定である。